「海陽中学校の港ヤンハ踊り伝承活動の取組」

１　学校名

薩摩川内市立海陽中学校

２　学年・人数

中学１年生から中学３年生男子(計 14 人)

３　日時・場所

（１）練習の日時・場所

４月 16 日の港蛭子神社の時は，事前に６回練習機会を設けた。披露する前に練習を行っている。踊り手の踊ることのできる技量で練習回数は変わってくる。

（２）発表の日時・場所

平成 28 年　４月 16 日(土) 14：30～
港蛭子神社祭り　場所：港蛭子神社

平成 28 年　４月 23 日(土) 10：00～
手うちん浜やオープニングセレモニー

平成 28 年 10 月 22 日(土) 11：30～
新田神社例祭奉納　場所：新田神社

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（１）名称

港ヤンハ踊り(みなとやんはおどり)

（２）由来

ヤンハ踊りの創始者または家元などについて記録もなく,年代もはっきりしていない。後継者の伝承，あるいは古老の語るところでは，島の御縁節の伝承と同じく藩主島津公来島の折，歓迎のため各地域の住民が語り合って創作したものといい，その後は神社の奉納，集落の祝賀行事などに出演し今日に至っているといわれる。

（３）構成等

基本的には，踊り手が４人，他に歌と太鼓で１人，拍子木１人で構成している。三味線を使っての踊りをしていた頃があると伝えられているが，現在その様子を知る保存会のメンバーはいない。状況に合わせて人数を変えて踊ることもある。

５　保存会や地域との連携の具体

保存会は今後も踊りの伝承を続けていきたいと考えている。港ヤンハ踊りは，本来港地区の踊りであるが，生徒数の減少から港地区以外の中学生にも声をかけて踊りを伝承している。学校では文化祭で踊る場を提供し，覚えた踊りを多くの生徒に披露してもらうようにしている。

６　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

保存会の方々を講師として学校に招聘し,次のことを説明してもらっている

①　踊りの由来やこれまでの流れ

②　一つ一つの踊りの意味　等

その後に実際に練習の場を設けている。

学校の文化祭においては本物の衣装を付けて，化粧をして取り組んでいる。化粧に関しては，文化祭当日保護者が担当している。

７　取組の様子（練習状況，発表の場等）

化粧・準備の様子

海陽中学校文化祭

港蛭子神社

港蛭子神社

８　参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【生徒】

- 港ヤンハを踊りました。踊り終わったときは失敗しなくて良かったという安心感がありました。またやりたいです。代々伝わってきていることなので自分たちも後輩達に伝えることが大切だと感じました。
- 踊り終わってみんなに披露できたという達成感がありました。後輩達がしっかりと受け継いでもらいたいと強く思っています。これまでは見る立場だったけど，踊りを披露する立場になれてうれしかったです。
- えびす祭りがありました。えびす祭りで自分たちはヤンハを踊りました。とても緊張しました。みんなを感動させたいと思いました。これまでの練習の成果を発揮できて良かったです。一つ一つの踊りの意味を考えながら踊ると気持ちも伝わると思いました。

【教職員】

・　生徒達はこの日のために，夜集まったり，昼休みを利用したりして練習を重ねてきました。本番は生徒の息もぴったりと合い，堂々とした舞でした。見ていた１，２年生や地域の方も「かっこいい。」と言っていました。息の合った踊りはとてもたくましく立派でした。